

れない、b) Mont, ch の 2 成分が含まれない、c) Mi, Hb の 2 成分が含まれない、の 3 例がある。菱形ダイアグラムは Mont-Ch, Mica-Hb の組合せを表示するものである。

Mont-Ch, Mica-Hb のそれぞれの X 線回析試験のチャートの高さを各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、 $Mo/Mo+Ch * 100$ と計算し、Mi, Hb, Ch も各々同様に計算し、記載する。菱形ダイアグラム内にある 1 ~ 7 は Mo, Mi, Hb, Ch の 4 成分を含み、各辺は Mo, Mi, Hb, Ch のうち 3 成分、各頂点は 2 成分を含んでいることを示す。

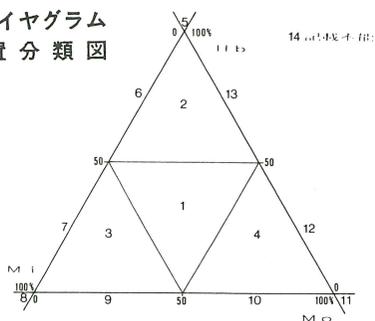
位置分類についての基本原則は第 2 図に示すとおりである。

2-2 焼成ランク

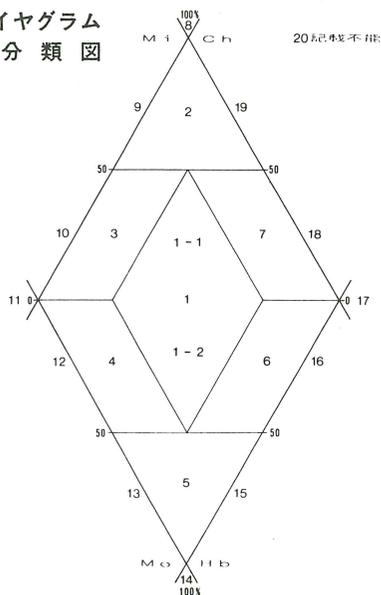
焼成ランクの区分は X 線回析試験による鉱物組成と、電子顕微鏡観察によるガラス量によって行った。

ムライト (Mullite) は、磁器、陶器など高温で焼かれた状態で初めて生成する鉱物であり、クリストバーライト (Cristobalite) はムライトより低い温度、ガラスはクリストバーライトより更に低

第 1 図 角ダイアグラム
位置分類図



第 2 図 菱形ダイアグラム
位置分類図



い温度で生成する。

これらの事実に基づき、X 線回析試験結果と電子顕微鏡観察結果から、土器胎土の焼成ランクを I ~ V の 5 段階に区分した。

- a) 焼成ランク I : ムライトが多く生成し、ガラスの単位面積が広く、ガラスは発砲している。
- b) 焼成ランク II : ムライトとクリストバーライトが共存し、ガラスは短冊状になり、面積は狭くなる。

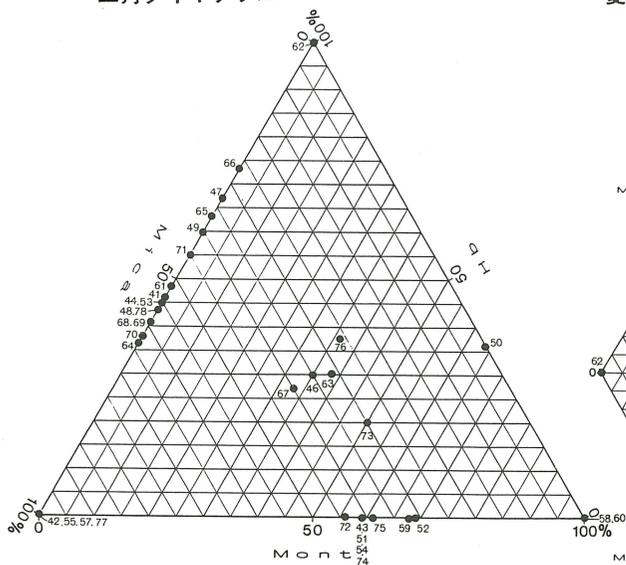
第1表 胎土性状表

試料 No.	タイプ 分類	焼成 ランク	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物															備考	時期			
			Mo-Mi-Hb	Mo-Ch,Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Hy	ガラス					
铸荷前-1	N	III	11	20	255					2167	226											坏-比企型	7CE	
铸荷前-2	N	III	11	20	185					2385	401	114											坏-比企型	7CE
铸荷前-3	K	III	8	20			114			2160	292	107											坏-比企型	7CM
铸荷前-4	N	III	11	20	190				199	2092	342	111											坏-比企型	7CE
铸荷前-5	E	III	5	20				218		2935	316	205											坏-続比企型	7CL~8CE
铸荷前-6	C	III~IV	1	16	222	164	83			2258	412												坏-続比企型	7CL~8CE
铸荷前-7	I	III	7	20		167	136			1730	700	141											坏-北武蔵型	8CE
铸荷前-8	I	III	7	20		184	132			1837	526	109											坏-北武蔵型	8CE
铸荷前-9	G	III	6	20		146	161			1719	485	192											坏-北武蔵型	8CE
铸荷前-10	D	III	5	11				105	139	1502	569	158											坏-北武蔵型	8CE
铸荷前-11	G	III	6	20				105	124	1555	1040	129											坏-北武蔵型	8CE
铸荷前-12	E	II~III	5	20					194	3208	510	121											甕	7C
铸荷前-13	E	II~III	5	20					74	3582	275	137			141								甕	7C
铸荷前-14	Q	III	14	20						1533	189									168			甕	7C
铸荷前-15	G	II~III	6	20			117	140		2108	605	151											甕	7CL~8CE
铸荷前-16	G	III	6	20			165	186		2187	641	117											甕	8CE
铸荷前-17	G	III	6	20			127	208		1913	634	127											甕	8CE
铸荷前-18	G	II~III	6	20			65	102		2330	1026	105											甕	8CE
铸荷前-19	E	III	5	20					60	2947	399	118											甕	8CE
铸荷前-20	H	III	7	9			132	125	150	2086	1354	98								346			甕	8CE
铸荷前-21	G	II~III	6	20			83	238		2078	843	151											甕	8CE
铸荷前-22	E	II	5	20					98	2670	482	93											甕	7C代
上敷免-23	G	II	6	20			68	103		1552	571	118											坏-北武蔵型	8CE
上敷免-24	G	II~III	6	20			84	116		1641	911	112											坏-北武蔵型	8CE
上敷免-25	I	II~III	7	20			141	133		1921	429	95											坏-北武蔵型	8CE
上敷免-26	E	I~II	5	20					71	2324	649	124	64										甕	8CE
上敷免-27	H	III~IV	7	9			173	111	144	2378	1120	156						65					甕	8CE
上敷免-28	E	III	5	20					125	1870	669	108											甕	8CE
水深-29	Q	III	14	20						136	2862	344	169										坏	8CE
水深-30	I	III	7	20				124	108		1901	749	99							126			坏-北武蔵型	8CE
水深-31	Q	III	14	20							1747	1439	178										坏-土師	8CE
水深-32	Q	III~IV	14	20							1439	857	192										坏-暗文	8CE

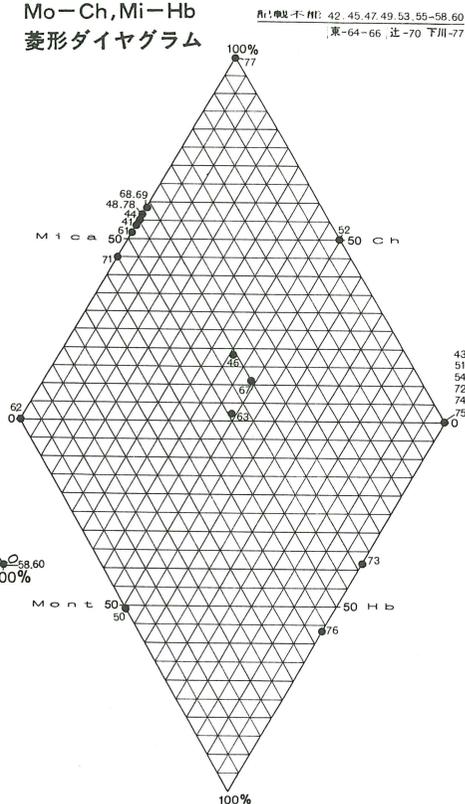
第1表 胎土性状表

試料 No.	タイプ 分類	焼成 ランク	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物															備考	時期						
			Mo-Mi-Hb	Mo-Ch,Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Hy	ガラス								
東川端-64	I		7	20		285	157			2026	541													坏			
東川端-65	G		6	20		78	134			1721	452	104													坏		
東川端-66	G		6	20		63	172			1768	835														甕		
辻ノ内-67	A		1	1	162	195	129	164		2091	539				71										坏		
辻ノ内-68	H		7	9		181	129	188		2241	926														坏		
辻ノ内-69	H		7	9		216	156	163		1969	925														坏		
辻ノ内-70	I		7	20		182	107			1774	655														坏		
辻ノ内-71	F		6	10		120	147	146		1882	511														甕		
東下川原-72	L		10	17	192	152				2359	899														皿	8 C E	
東下川原-73	C		1	16	243	148	92			2152	436														皿	8 C E	
東下川原-74	L		10	17	206	147				2166	362	88													碗	8 C E	
東下川原-75	L		10	17	230	148				2022	332														碗	8 C E	
東下川原-76	B		1	15	204	149	194			2288	549														坏	8 C E	
鳩山粘土-77	J		8	8		103		172		2507	198																
金井粘土-78	H		7	9		204	161	349		1558	221				109												
足洗-1	L	III	8	20		153				3687	499	166													坏-土師	6 C	
足洗-2	L	III	8	20		147				2648	294	91													坏-土師	6 C	
足洗-3	J	III	8	8		128		191		3199	464	111													坏-土師	6 C	
足洗-4	K	III	8	20		119				3460	296	88													坏-土師	6 C	
足洗-5	N	III	11	20	282			274		2026	779														坏-土師	7 C	
足洗-6	L	III	10	17	242	136				1843	261	84													坏-土師	7 C	
足洗-7	L	III	10	17	217	168				2089	356	85													坏-土師	7 C	
足洗-8	L	III	10	17	289	176				2250	317	99													坏-土師	7 C	
足洗-9	N	III	11	20	243					2015	281														坏-土師	7 C	
足洗-10	L	III	10	17	229	141				2121	399														坏-土師	8 C	
足洗-11	H	III	7	9		113	88	123		3073	626	159													坏-土師	8 C	
足洗-12	P	III	12	14	209		128			1622	399														坏-土師	8 C	
足洗-13	I	III	7	20		136	117			1428	490	149													坏-土師	8 C	
足洗-14	E	III	5	20			130			2479	344	99		176											坏-土師	8 C	
足洗-15	I	III	7	20		130	106			1325	479														坏-土師	8 C	

第3図 Mo-Mi-Hb
三角ダイアグラム



第4図 Mo-Ch, Mi-Hb
菱形ダイアグラム



c) 焼成ランクⅢ：ガラスのなかにクリストバーライトが生成し、ガラスの単位面積が狭く、葉状断面をし、ガラスのつながりに欠ける。

d) 焼成ランクⅣ：ガラスのみが生成し、原土（素地土）の組織をかなり残している。ガラスは微小な葉状を呈する。

e) 焼成ランクⅤ：原土に近い組織を有し、ガラスは殆どできていない。

以上のⅠ～Ⅴの分類は原則であるが、胎土の材質、すなわち、粘土の良悪によってガラスの生成量は異なるので、電子顕微鏡によるガラス量も分類に大きな比重を占める。このため、ムライト、クリストバーライトなどの組合せといくぶん異なる焼成ランクが出現することになるが、この点については第1表の右端の備考に理由を記した。

3 分析結果

3-1 タイプ分類

第1表胎土性状表に示すように、稲荷前、上敷免、水深、新井、児玉工業団地、東川端、辻ノ内、東下川原、足洗の各遺跡より出土した土器を分析した。

第2表 タイプ分類一覧表

試料 No.	タイプ分類	備考	試料 No.	タイプ分類	備考	試料 No.	タイプ分類	備考
稲荷前-46	A	甕	東川端-65	G	坏	稲荷前-51	L	碗
東川端-63	A	甕	東川端-66	G	甕	稲荷前-54	L	坏
辻ノ内-67	A	坏	稲荷前-20	H	甕	稲荷前-59	L	坏
東下川原-76	B	坏	稲荷前-41	H	甕	東下川原-72	L	皿
稲荷前-6	C	坏-続比企型	稲荷前-44	H	甕	東下川原-74	L	碗
児玉-38	C	坏-土師	稲荷前-48	H	甕	東下川原-75	L	碗
東下川原-73	C	皿	上敷免-27	H	甕	足洗-6	L	坏-土師
稲荷前-10	D	坏-北武蔵型	児玉-40	H	坏-土師	足洗-7	L	坏-土師
東川端-62	D	坏	東川端-61	H	坏	足洗-8	L	坏-土師
稲荷前-5	E	坏-続比企型	辻ノ内-68	H	坏	足洗-10	L	坏-土師
稲荷前-12	E	甕	辻ノ内-69	H	坏	稲荷前-52	M	坏
稲荷前-13	E	甕	金井粘土-78	H		稲荷前-1	N	坏-比企型
稲荷前-19	E	甕	足洗-11	H	坏-土師	稲荷前-2	N	坏-比企型
稲荷前-22	E	甕	稲荷前-7	I	坏-北武蔵型	稲荷前-4	N	坏-比企型
上敷免-26	E	甕	稲荷前-8	I	坏-北武蔵型	稲荷前-58	N	坏
上敷免-28	E	甕	稲荷前-53	I	甕	稲荷前-60	N	坏
足洗-14	E	坏-土師	上敷免-25	I	坏-北武蔵型	足洗-5	N	坏-土師
水深-34	F	甕-土師	水深-30	I	坏-北武蔵型	足洗-9	N	坏-土師
辻ノ内-71	F	甕	新井-38	I	坏-土師	稲荷前-50	O	甕
稲荷前-9	G	坏-北武蔵型	東川端-64	I	坏	足洗-12	P	坏-土師
稲荷前-11	G	坏-北武蔵型	辻ノ内-70	I	坏	稲荷前-14	Q	甕
稲荷前-15	G	甕	足洗-13	I	坏-土師	稲荷前-45	Q	甕
稲荷前-16	G	甕	足洗-15	I	坏-土師	水深-29	Q	坏
稲荷前-17	G	甕	水深-35	J	甕	水深-31	Q	坏-土師
稲荷前-18	G	甕	鳩山粘土-77	J		水深-32	Q	坏-暗文
稲荷前-21	G	甕	足洗-3	J	坏-土師	稲荷前-56	R	坏
稲荷前-47	G	甕	稲荷前-42	K	甕			
稲荷前-49	G	甕	稲荷前-3	K	坏-比企型			
上敷免-23	G	坏-北武蔵型	稲荷前-55	K	坏			
上敷免-24	G	坏-北武蔵老	稲荷前-57	K	坏			
水深-33	G	甕-土師	足洗-1	K	坏-土師			
新井-36	G	坏-土師	足洗-2	K	坏-土師			
新井-37	G	坏-土師	足洗-4	K	坏-土師			
児玉-7	G	甕	稲荷前-43	L	甕			

分析結果に基づいて第3図三角ダイヤグラム、第4図菱形ダイヤグラムを作成し、位置分類を行った。位置分類に基づいて胎土のタイプ分類を行った結果が第2表タイプ分類一覧表である。表から明らかな様に、全体で94個分析し、A～Rの18タイプに分類された。その内最も多いタイプはGタイプの17個。ついでMタイプの11個、HとIの各10個、Eタイプの8個となり、大変に種類が多いのが特長である。

Aタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの4成分を含む。個体数は3個である。

Bタイプ：Mont, Mica, Hbの3成分を含み、Ch1成分に欠ける。個体数は1個である。

Cタイプ：Mont, Mica, Hbの3成分を含み、Ch1成分に欠ける。個体数は3個。組成的にはBタイプと同じであるが位置分類が異なる。

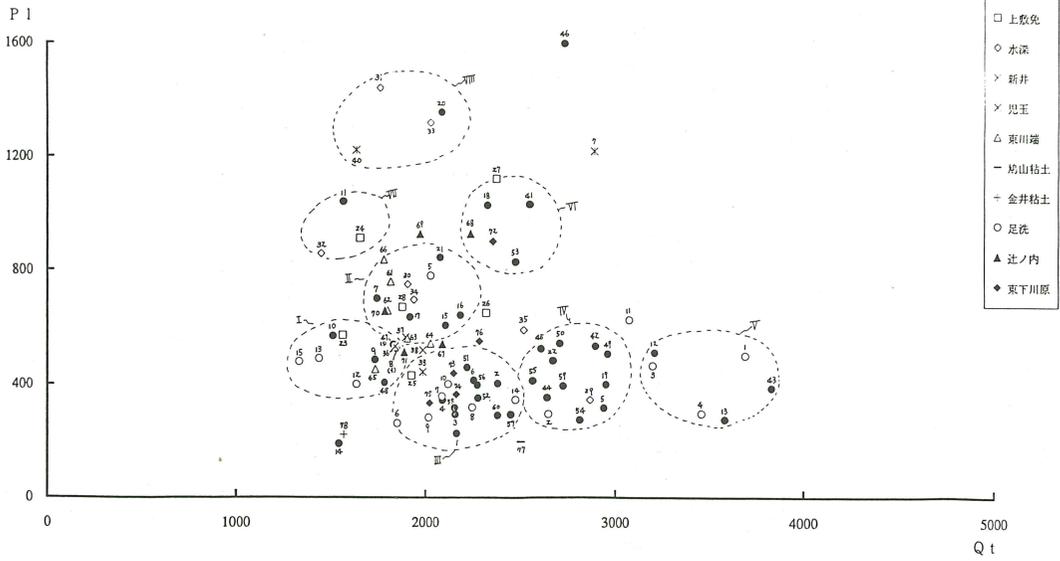
Dタイプ：Hb, Chの2成分を含み、Mont, Micaの2成分に欠ける。個体数は2個。

Eタイプ：Hb1成分を含み、Mont, Mica, Chの3成分に欠ける。個体数は8個と多い。稲荷前遺跡の土器が多い。

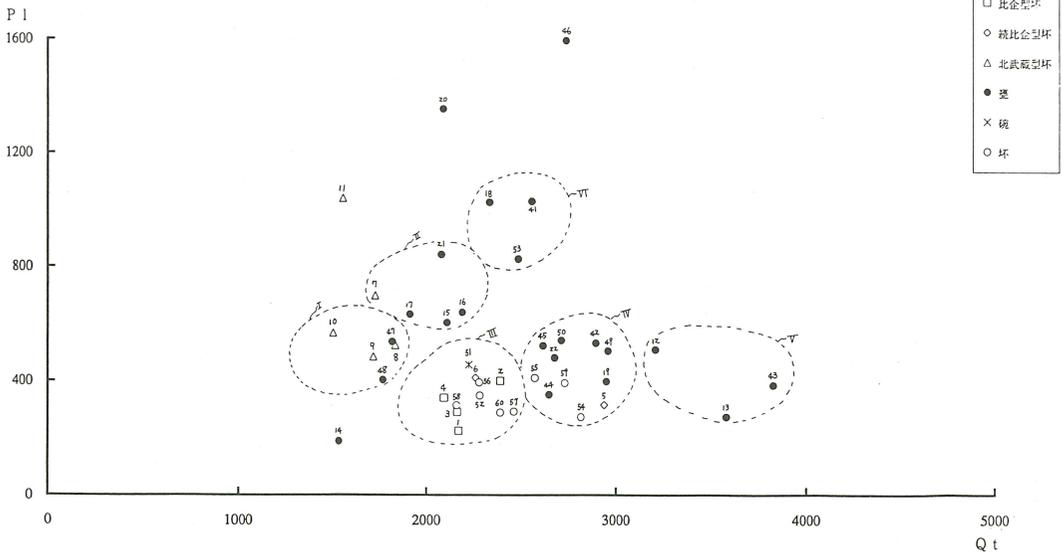
Fタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont1成分に欠ける。個体数は2個。

Gタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。個体数は17個と最も多い。稲荷前遺跡の甕が多く含まれる。上敷免、水深、新井、児玉、東川端の土器も混在す

第5図 Qt-PI 相関図



第6図 Qt-PI 相関図



る。

Hタイプ：Mica, Hb, Ch の3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。個体数は10個と多い。Fタイプとは組成的に類似する。稲荷前の甕が多く含まれる。

Iタイプ：Mica, Hb の2成分を含み、Mont, Ch の2成分に欠ける。個体数は10個であるが、各遺跡の坏で構成される。組成的にはGタイプの17個と類似するが検出強度が異なるために、位置が異なる。

Jタイプ：Mica, Ch の2成分を含み、Mont, Hb の2成分に欠ける。個体数は3個。

Kタイプ：Mica 1成分を含み、Mont, Hb, Ch の3成分に欠ける。個体数は7個で、稲荷前と足

洗の坏が多い。

Lタイプ：Mont, Mica の2成分を含み、Hb, Ch の2成分に欠ける。個体数は11個と多い。稲荷前、足洗、東下川原の坏と碗が混在する。

Mタイプ：Mont, Mica, Ch の3成分を含み、Hb 1成分に欠ける。個体数は1個。

Nタイプ：Mont 1成分を含み、Mica, Hb, Ch の3成分に欠ける。個体数は7個であるが、稲荷前と足洗の坏だけで構成される。

Oタイプ：Mont, Hb, Ch の3成分を含み、Mica 1成分に欠ける。個体数は1個。

Pタイプ：Mont, Hb の2成分を含み、Mica, Ch の2成分に欠ける。個体数は1個。

Qタイプ：Mont, Mica, Hb, Ch の4成分に欠ける。組成的には $m\text{Al}_2\text{O}_3 \cdot n\text{SiO}_2 \cdot l\text{H}_2\text{O}$ (アルミナゲル) で構成される。個体数は5個で、稲荷前と水深の甕と坏。

Rタイプ：Ch 1成分を含み、Mont, Mica, Hb の3成分に欠ける。個体数は1個。

以上の結果から明らかな様に、稲荷前遺跡の甕はA、E、G、Hタイプに集中し、坏はC、I、K、L、Nに集中する。

3-2 石英(Qt)-斜長石(Pl)の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地における砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

この固有の比率を有する砂をどの程度粘土中に混入するかは各々の集団の有する固有の技術の一端と考えられる。

第5図 Qt-Pl 相関図(総合図)は各遺跡全部の土器を記載したもの。第6図 Qt-Pl 相関図は稲荷前遺跡の土器だけを記載したものである。

土器はI~VIIIの8グループと“その他”に分類された。

「総合図」について

Iグループ：稲荷前と足洗遺跡の坏と甕が共存するグループ。

IIグループ：稲荷前の甕が集中し、水深、東川端などの土器が混在する。

IIIグループ：稲荷前の坏が集中し、足洗の坏とで共存する。東下川原の土器もこのグループに集中する。

IVグループ：稲荷前の甕が集中し、坏と共存する。他の遺跡の土器はほとんど含まれず、稲荷前の土器のグループといえる。

Vグループ：稲荷前の甕と足洗の坏だけで構成されるグループ。

VIグループ：稲荷前の甕が集中するグループで、辻ノ内と東下川原の土器が混在する。

VIIグループ：稲荷前の坏、上敷免、水深の土器が共存する。

VIIIグループ：水深の土器が集中し、稲荷前の甕、児玉の土器が共存する。

“その他”：鳩山の粘土と金井（B）の粘土は共にどのグループとも共存しないで、異質である。稲荷前の14と46、児玉の7は共に各グループから離れており、異質である。これら以外のものは各グループに近いところに位置し、いずれかのグループに含まれるのかもしれない。

「稲荷前遺跡」について

第6図に示すように、土器はI～VIの6グループと、その他、に分類された。

Iグループ：北武蔵型坏が集中するグループで、足洗の8Cの坏と共存する。甕も2個共存している。

IIグループ：Gタイプの胎土で作られた甕が集中する。

IIIグループ：比企型坏が集中し、坏と共存する。足洗の7Cの坏もこのグループに集中し共存している。続比企型坏と碗も混在している。

IVグループ：甕が集中するグループで、続比企型坏と坏と共存している。

Vグループ：甕が集中し、足洗の6Cの坏と共存する。

“その他”：11、20、46は斜長石の強度が高く異質、14は斜長石の強度が低く異質で、各々が1つのグループを代表しているものであろう。

以上の結果から明らかな様に稲荷前の土器は甕と坏に別れてグループを形成し、足洗遺跡の土器とは同じグループに共存することが多く、関連性が伺われる。また、東川端の土器はIIグループに集中し、東下川原遺跡の土器はIIIグループに集中し、各々稲荷前の土器と共存し、共に関連性が高い。

4 まとめ

1) 土器胎土はA～Rの18タイプに分類された。これは甕と坏で胎土が異なり、遺跡毎に胎土が異なるために、多くの胎土が検出されたものであろう。

A、E、G、Hの4タイプは甕が主体となる胎土、I、K、L、N、Qの5タイプは坏が主体となる胎土である。GとHの2タイプは坏の一部が含まれている。

2) 電子顕微鏡によるガラスの分析では稲荷前-41～60の20個は中粒のガラスが生成し、焼成ランクはIIIと余り高くない。

3) 石英(Qt)と斜長石(Pl)の相関では坏と甕は別れてグループを作り、比企型坏と北武蔵型坏も別れてグループを形成する。また、他の遺跡との関係では、足洗遺跡の坏とは明らかに同じグループに共存する傾向が強く、関連性が高い。東川端、東下川原遺跡の土器とも共存し、関連性が伺われる。鳩山の粘土と金井（B）遺跡の粘土は遺跡の土器と組成的に異なり、明らかに異質である。

(2) 稲荷前遺跡出土土器胎土分析(須恵器)鑑定報告

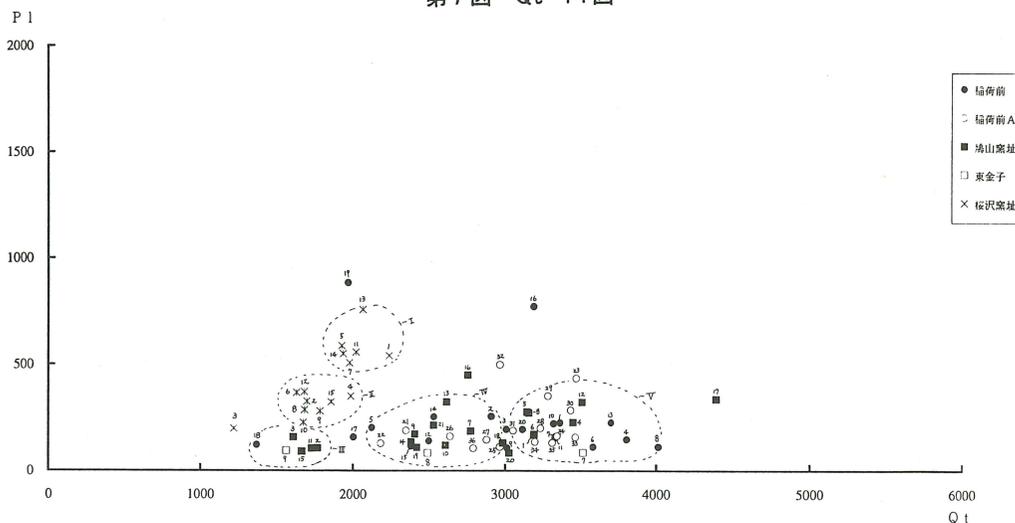
1) Qt-P1 関連について

第3表胎土性状表に示すように、稲荷前、稲荷前(A)、鳩山窯址、東金子、桜沢窯址の土器、主に、須恵器の坯を主体として分析したものが記載してある。第5図 Qt-P1 相関図に示すように、土器は I ~ V の5グループと “その他” に分類された。

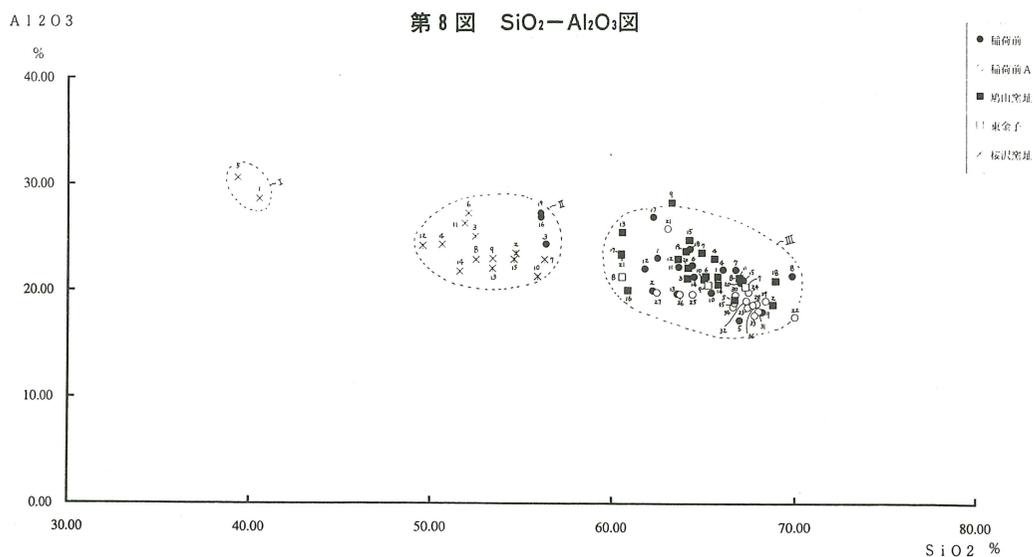
I と II の2グループには桜沢窯址の土器と瓦が集中し、他の土器は含まれない。

これとは対照的に稲荷前遺跡の土器と鳩山窯址の土器は III ~ V の3グループに分れ、ともに共存する。このことは鳩山窯址の土器自身が3タイプあり、これらが供給された稲荷前遺跡でも3タイプ

第7図 Qt-P1 図



第8図 SiO₂-Al₂O₃図

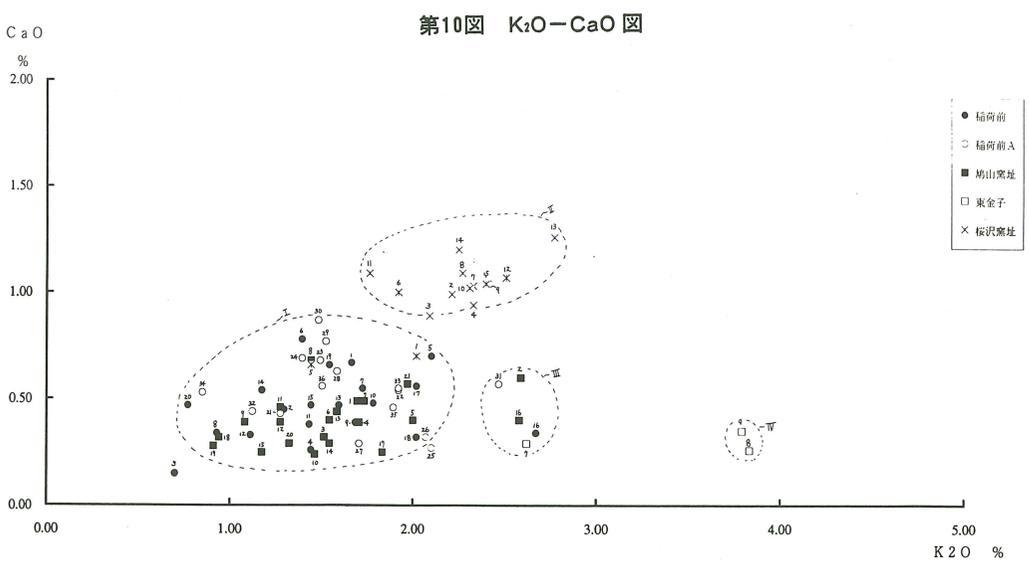
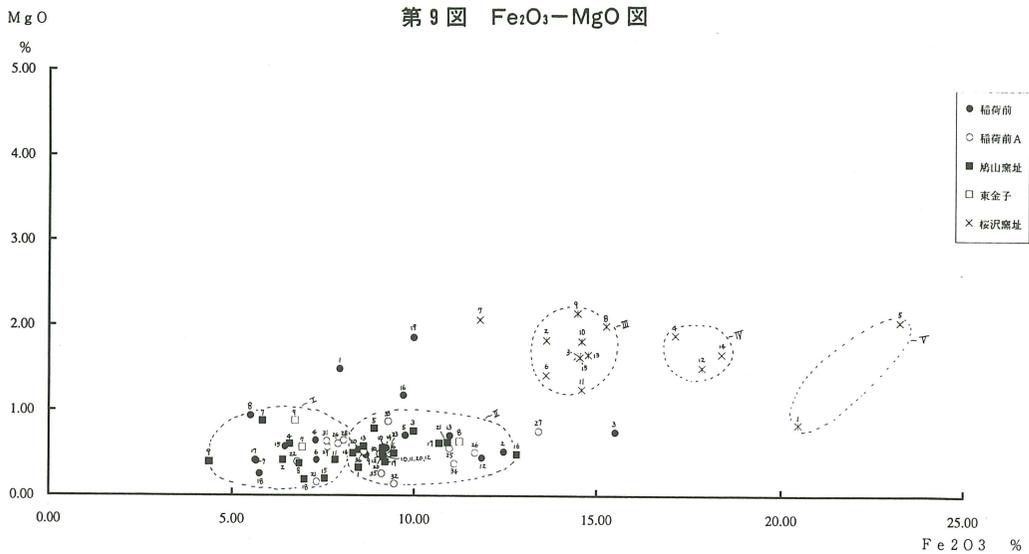


第3表 胎土性状表

試料 No.	タイプ 分類	焼成 ランク	組成分類 Mo-Mi-Hb	Mo-Ch Mi-Hb	粘土鉱物および造岩鉱物															備 考			
					Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Au	ガラス				
稲荷前-1			14	20						3360	229	621	108										坏8CL
稲荷前-2			14	20						2912	258	552	75										坏8CL
稲荷前-3			14	20						3007	197	650	95						96				坏9CL
稲荷前-4			14	20						3810	150	222											坏8CM
稲荷前-5			14	20						2123	205	1146	115						113				坏9CL
稲荷前-6			14	20						3581	115	829	184						166				蓋8CM
稲荷前-7			14	20						3327	158	245	84										坏8CM
稲荷前-8			14	20						4012	115	817	180						95				坏8CM
稲荷前-9			14	20						3012	109	941	109						110				坏9CE
稲荷前-10			14	20						3318	225	224	62										坏9CL
稲荷前-11			14	20						3328	163	946	90						84				坏8CL
稲荷前-12			14	20						2507	142	1289	147						152				坏9CM
稲荷前-13			14	20						3705	230	592	69						67				坏9CM
稲荷前-14			14	20						2541	256	832	171						167				坏9CM
稲荷前-15			14	20						2388	117	954	204						219				坏8CL
稲荷前-16			14	20						3186	777												坏8CE
稲荷前-17			14	20						2002	160	257											坏8CE
稲荷前-18			14	20						1372	123	956	224						198				蓋8CE
稲荷前-19			14	20						1967	887	141	77										蓋9CL
稲荷前-20			5	20						3113	197												坏10CE
稲荷前(A)-21			5	20						2354	191	213											坏
稲荷前(A)-22			14	20						2183	130	1025	159						180				坏
稲荷前(A)-23			5	20						3468	438	226											坏
稲荷前(A)-24			14	20						3340	166	940	60										坏
稲荷前(A)-25			14	20						2966	113	285											坏

第3表 胎土性状表

試料 No.	タイプ 分類	焼成 ランク	組成分類 Mo-Mi-Hb	Mo-Ch Mi-Hb	粘土鉱物および造岩鉱物															備 考
					Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Au	ガラス	
鳩山窯址-15		I	14	20						1666	92		300				259			坏-須恵器、8CL
鳩山窯址-16		III	14	20						2764	452	278								坏-須恵器、8CL
鳩山窯址-17			14	20						4384	340	205								坏-須恵器、8CL
鳩山窯址-18			14	20						2985	132	822	164				143			坏-須恵器、8CL
鳩山窯址-19			14	20						2427	111	221	74							坏-須恵器、9CM
鳩山窯址-20			14	20						3025	85	1090	121				108			坏-須恵器、8CL
鳩山窯址-21			14	20						2539	216	234	73							坏-須恵器、9CM
坂東山西-7	K		14	20						3514	88	156	119							坏-平安-東金子
坂東山西-8	K		14	20						2498	85	181	88							坏-平安-東金子
坂東山西-9	K		14	20						1566	96	151	166				175			坏-平安-東金子
桜沢-1	D	III	7	20		154	130			2240	543	95								坏10CE
桜沢-2	H	I~II	14	20						1700	329	138								皿10CE
桜沢-3	H	II	14	20						1221	200	302	41							高台付坏10CE
桜沢-4	B	I~II	5	20			95			1984	352	124								坏10CE
桜沢-5	B	III	5	20			146			1925	590	97								高台付坏10CE
桜沢-6	A	III	5	11			138	290		1633	369				74					高台付坏10CE
桜沢-7	B	II	5	20			69			1976	509	116								坏10CE
桜沢-8	B	II	5	20			66			1685	289	144								坏10CE
桜沢-9	H	I~II	14	20						1783	283	128								皿10CE
桜沢-10	B	I~II	5	20			65			1676	229	115								坏9~10CE
桜沢-11	D	III	7	20		181	150			2020	560	89								平瓦9~10CE
桜沢-12	B	III	5	20			127			1684	373	128								平瓦9~10CE
桜沢-13	B	III	5	20			179			2065	760	148								平瓦9~10CE
桜沢-14	B	III	5	20			132			1934	552									平瓦9~10CE
桜沢-15	H	I~II	14	20						1854	325	176								平瓦9~10CE



プが検出されたことを意味している。

東金子の土器も同じように3グループに各々1個づつ分散して入っている。東金子の土器が鳩山窯址の土器と直接関連するよう見受けられるが、東金子の土器はK₂Oの値が高く、鳩山窯址の土器とは異なる。

2) 化学分析結果について

化学分析は第2表化学分析表に示すように10成分について分析し、Wt%で表示してある。

分析は日本電子製エネルギー分散型X線分析装置(EDS)-2,001型で行った。実験条件は加速電

圧：15KV、測定時間：100秒、倍率：200倍、分析法：スプリント法で行った。

a) $\text{SiO}_2 - \text{Al}_2\text{O}_3$ の相関について

第8図に示すように土器はⅠ～Ⅲの3グループに分れた。ⅠとⅡの2グループには桜沢窯址の土器と瓦が集中する。Ⅱグループの中には稲荷前-3、16、19の3個が含まれ、鳩山窯址と稲荷前遺跡の土器としては異質である。

Ⅲグループには稲荷前遺跡、鳩山窯址、東金子の土器が共存する。鳩山窯址と、稲荷前遺跡の土器は1つのグループに属し、分類できないことから判断して関連性が高いと判断された。東金子の土器はⅢグループに属するが、 K_2O の値が高く異質であるので、関連性は薄い。

b) $\text{Fe}_2\text{O}_3 - \text{MgO}$ の相関について

第9図に示すように、土器はⅠ～Ⅴの5グループと“その他”に分類された。

ⅠとⅡグループには鳩山窯址の土器と稲荷前遺跡の土器が共存し、関連性が伺われる。東金子の土器も共存する。

Ⅲ～Ⅴの3グループには桜沢窯址の土器と瓦が集中し、明らかに鳩山窯址と稲荷前の土器とは異質である。桜沢窯址の中でも桜沢-1と5は異質である。

“その他”の稲荷前-3、16、19の3個の土器は第6図においても異なるグループに属し、鳩山窯址と稲荷前遺跡の土器の中では異質である。

c) $\text{K}_2\text{O} - \text{CaO}$ の相関について

第10図から明らかな様に、Ⅰ～Ⅳの4グループと“その他”に分類された。

Ⅰグループには鳩山窯址と稲荷前遺跡の土器が集中し、関連性が高い。このグループには桜沢-1と5の2個の土器が共存し、桜沢窯址の中では異質である。このグループには東金子の土器は含まれない。

Ⅱグループには桜沢窯址の土器と瓦が集中する。

Ⅲグループには東金子と鳩山窯址、稲荷前-16の土器が共存する。

Ⅳグループには東金子の土器だけが集中する。このグループは K_2O の値が高く異質である。

写 真 图 版



稻荷前遺跡遠景



稻荷前遺跡全景(南から北)



稲荷前遺跡B・C区全景(西から東)



稲荷前遺跡B区全景(北から南)



稲荷前遺跡C区全景(東から西)



稲荷前遺跡C区全景(北から南)



第1号住居跡



第1号住居跡
遺物出土状態



第2号住居跡



第3号住居跡



第5号住居跡



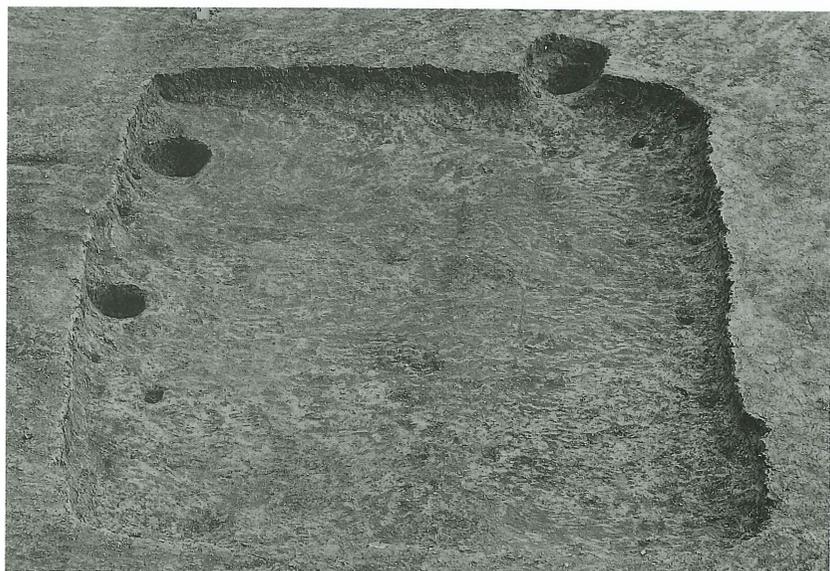
第5号住居跡カマド



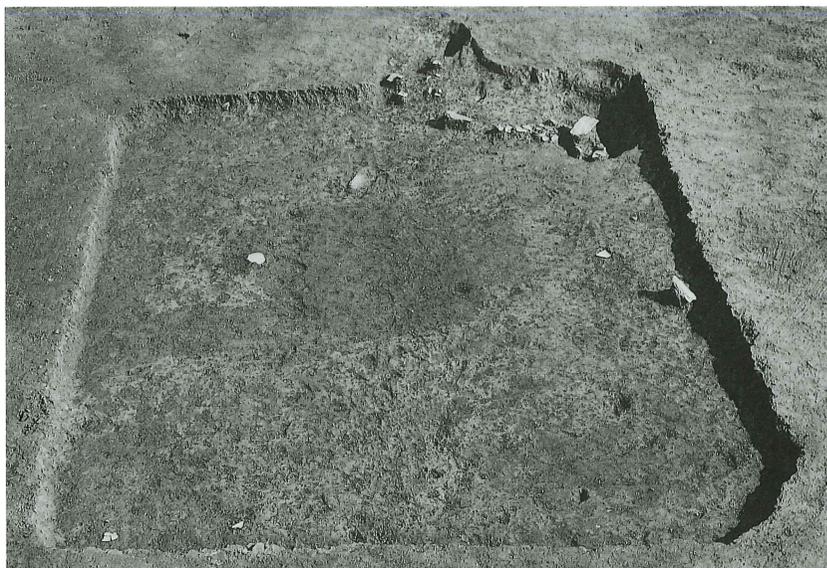
第 6 号住居跡



第 8 号住居跡



第 9 号住居跡



第10号住居跡



第11号住居跡



第11号住居跡カマド



第11号住居跡
遺物出土状況



第13・14号住居跡



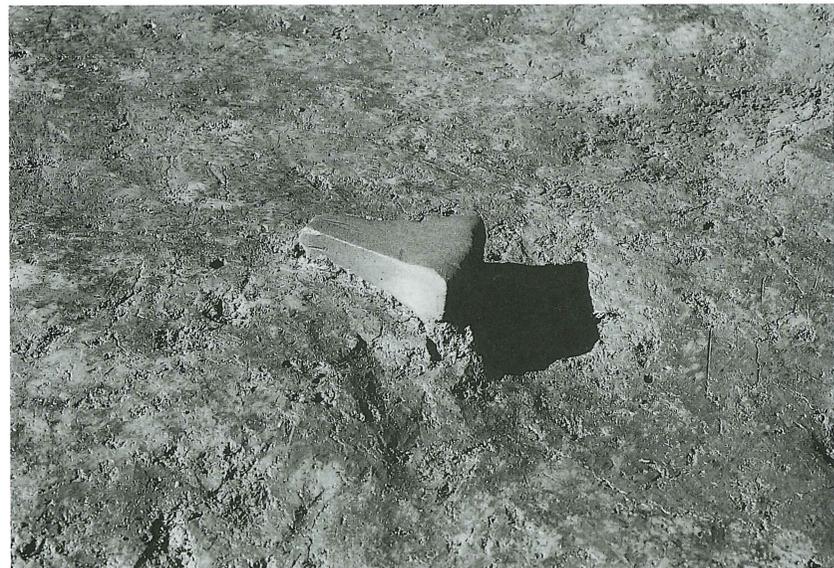
第15号住居跡



第15号住居跡
遺物出土狀況



第15号住居跡
遺物出土狀況



第15号住居跡
遺物出土狀況



第16号住居跡



第17号住居跡



第18・19号住居跡

第18号住居跡
遺物出土状況



第19号住居跡カマド



第20号住居跡カマド





第21号住居跡
遺物出土状況



第22号住居跡



第22号住居跡
遺物出土状況



第23・24号住居跡
カマド



第25号住居跡



第25号住居跡カマド



第26号住居跡



第28号住居跡

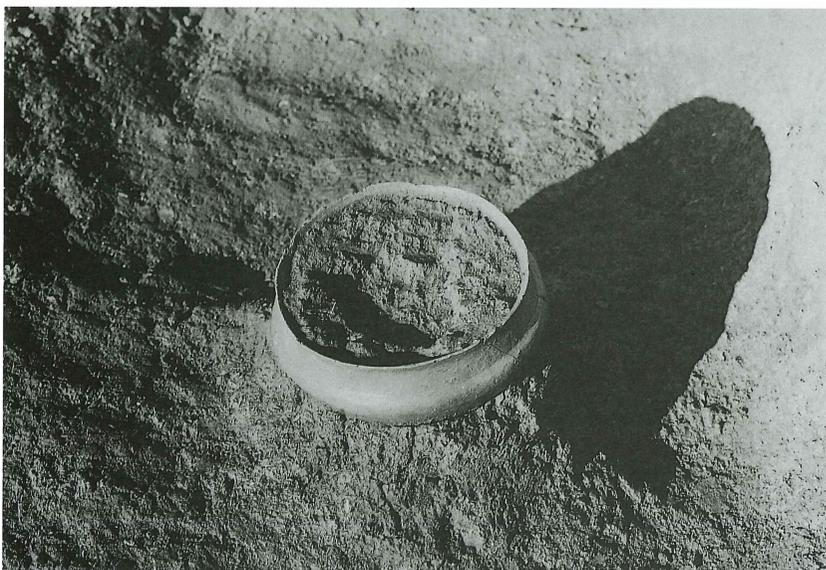


第29号住居跡

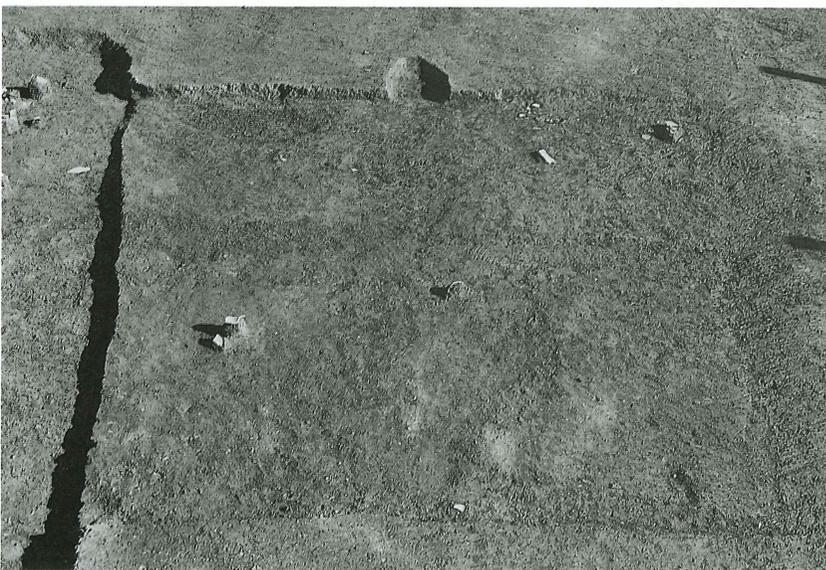
第29号住居跡
遺物出土狀況

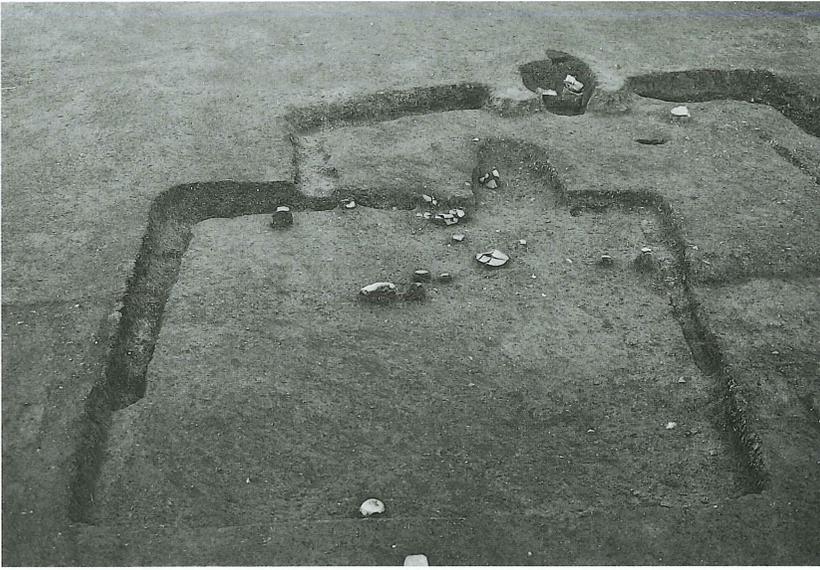


第29号住居跡
遺物出土狀況



第30号住居跡

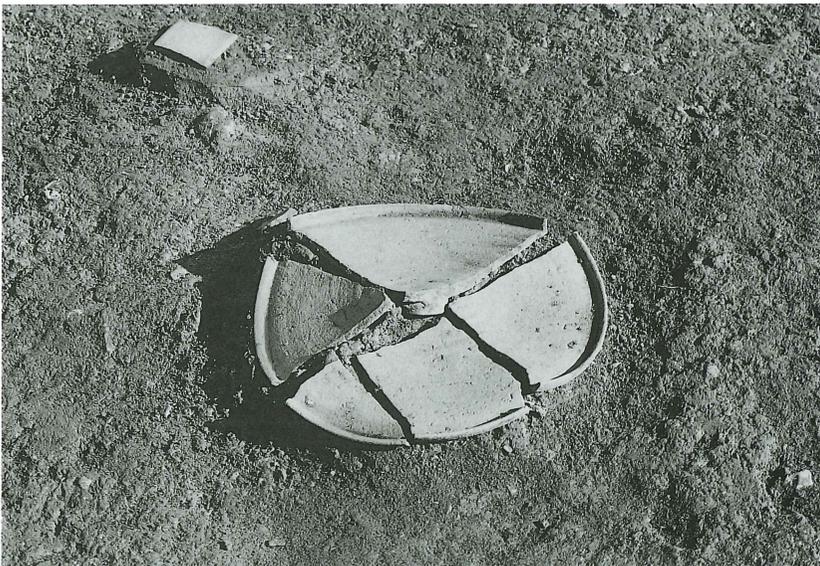




第32・33号住居跡



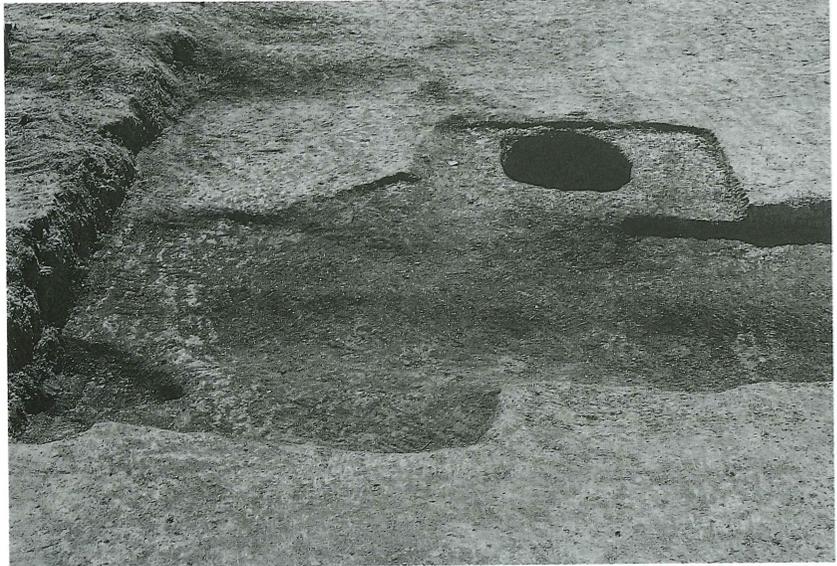
第32号住居跡カマド



第32号住居跡
遺物出土状況



第33号住居跡カマド



第35・36号住居跡



第38号住居跡



第39号住居跡



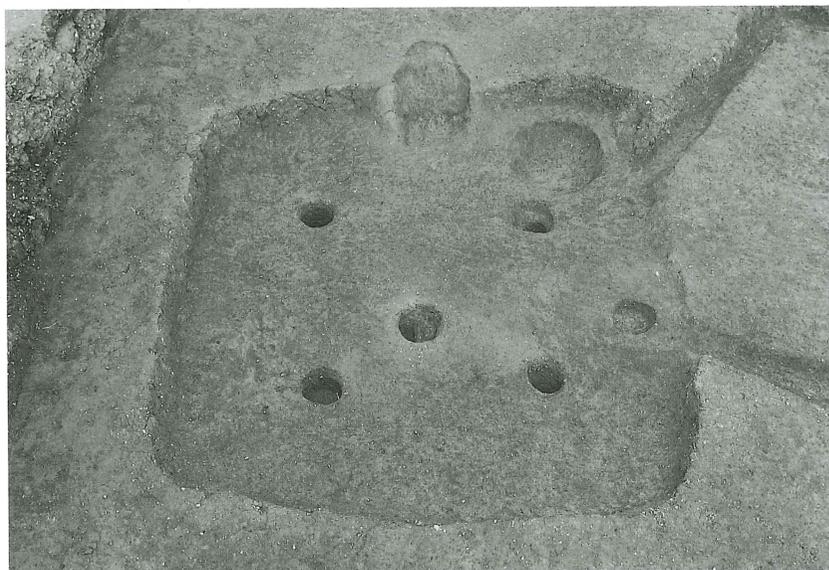
第40号住居跡



第40号住居跡
遺物出土状況



第39~41号住居跡



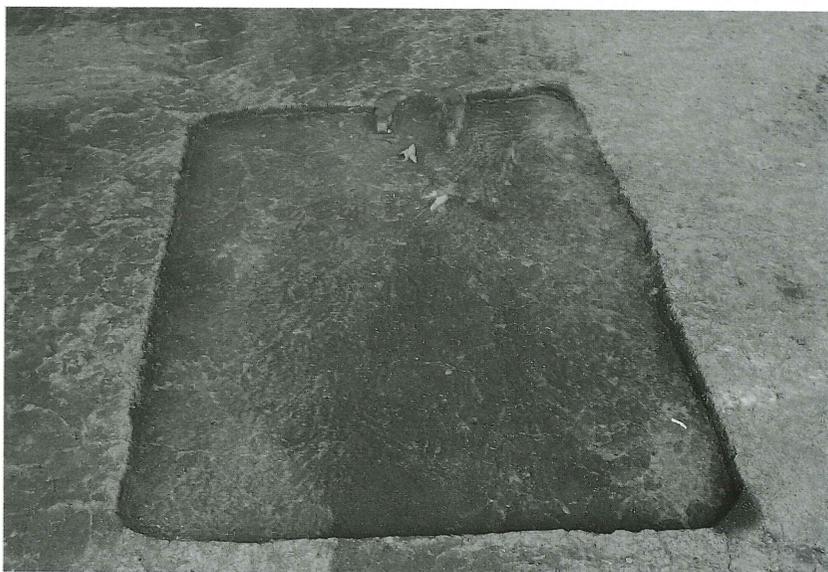
第41号住居跡



第42号住居跡



第43号住居跡



第44号住居跡



第45号住居跡



第45号住居跡カマド



第45号住居跡
遺物出土状況



第45号住居跡
遺物出土状況



第48号住居跡



第49号住居跡



第49号住居跡
遺物出土状況



第49号住居跡
遺物出土狀況



第50号住居跡



第52号住居跡



第53号住居跡



第53号住居跡
遺物出土狀況



第54・58号住居跡



第54号住居跡



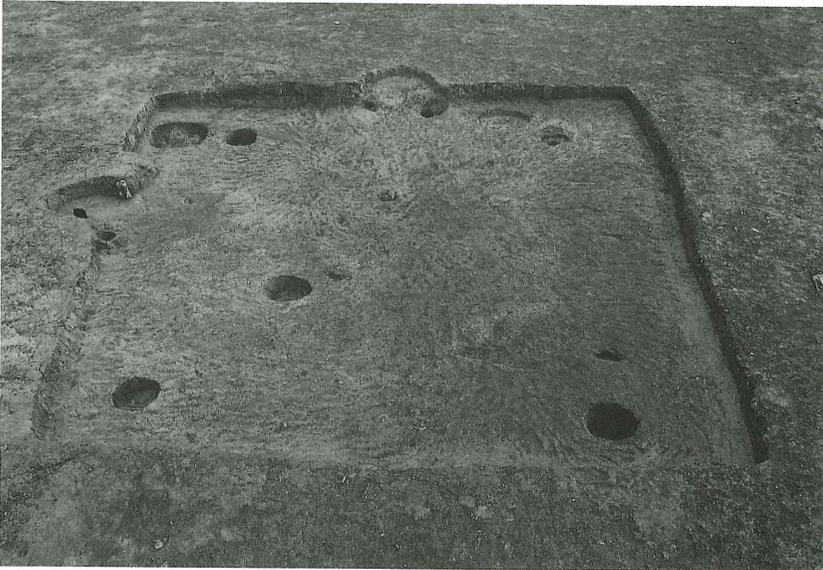
第54・55号住居跡



第57・58号住居跡



第57号住居跡カマド



第59・61号住居跡



第59～61号住居跡



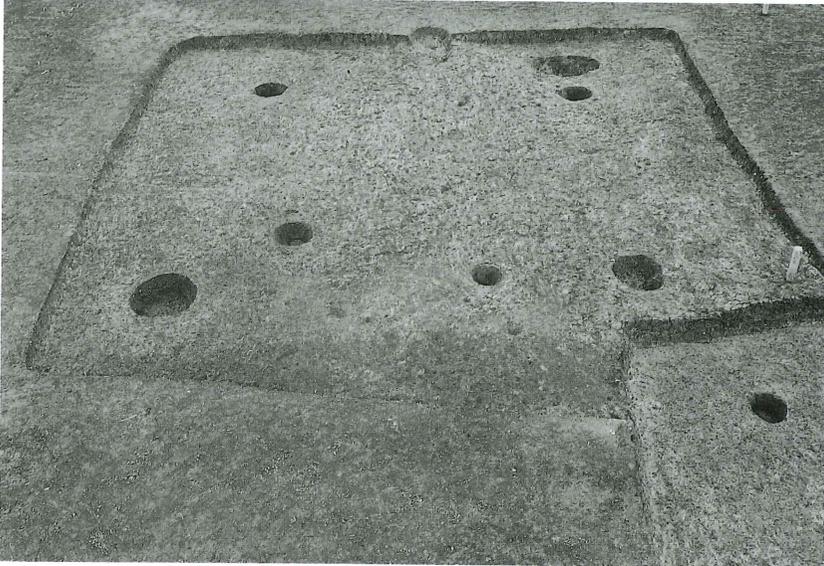
第59号住居跡カマド



第60・61号住居跡



第60号住居跡カマド



第62号住居跡



第62号住居跡
遺物出土状況



第62号住居跡カマド



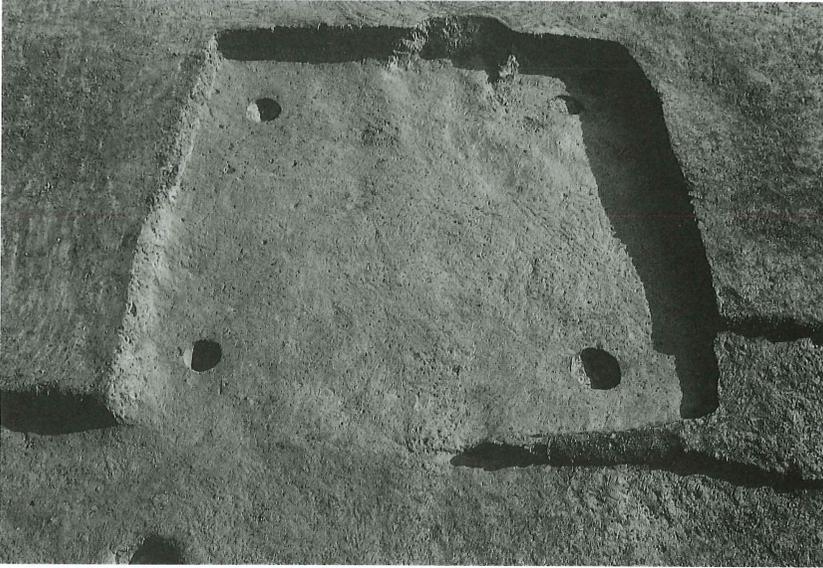
第63号住居跡



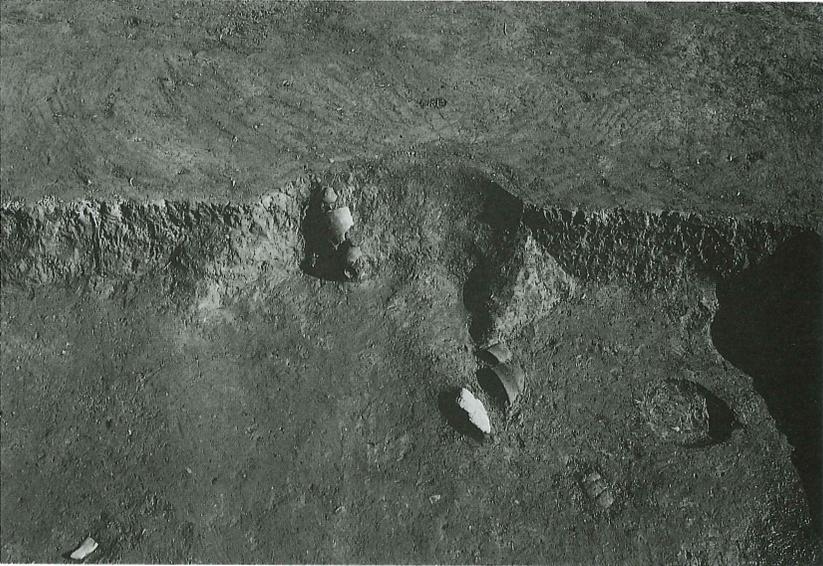
第63号住居跡
遺物出土狀況



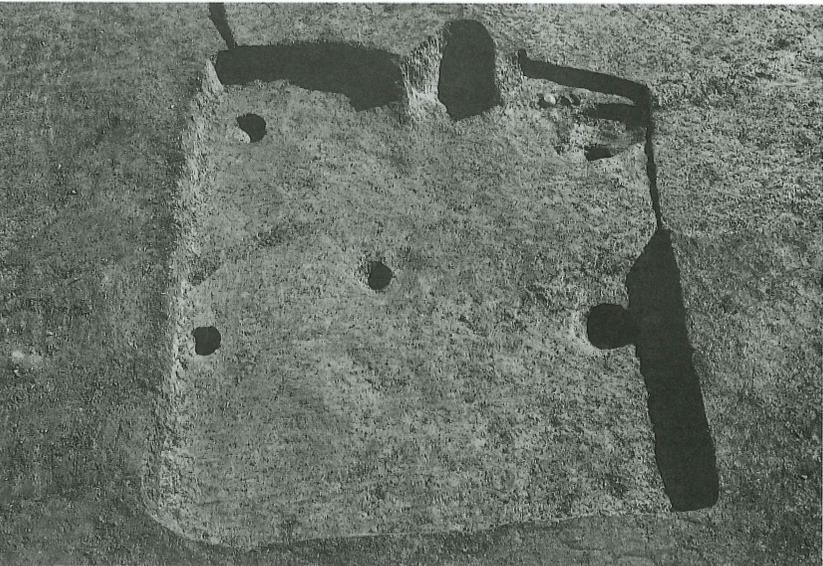
第64号住居跡



第67号住居跡



第67号住居跡カマド



第68号住居跡



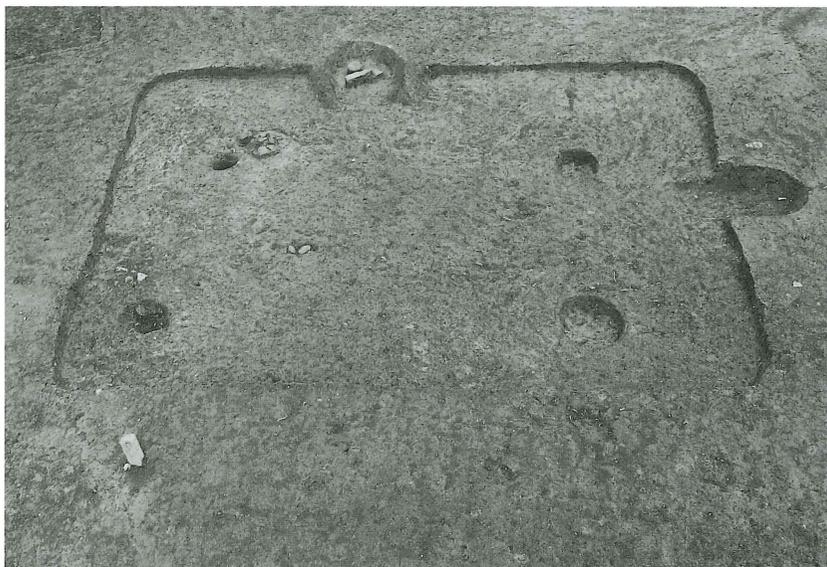
第70号住居跡
2号カマド



第72号住居跡



第73号住居跡



第74号住居跡



第74号住居跡
遺物出土状況



第75号住居跡



第75号住居跡カマド



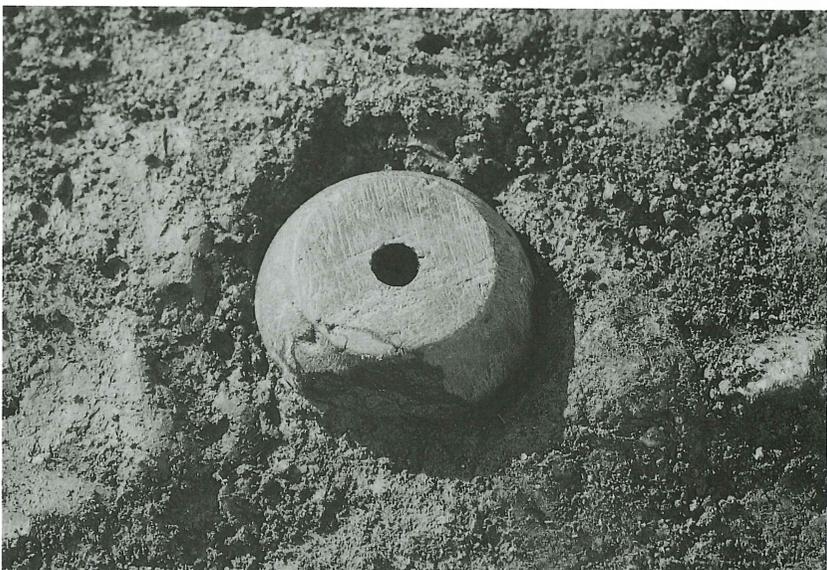
第75号住居跡
遺物出土状況



第76号住居跡



第76号住居跡カマド



第76号住居跡
遺物出土状況



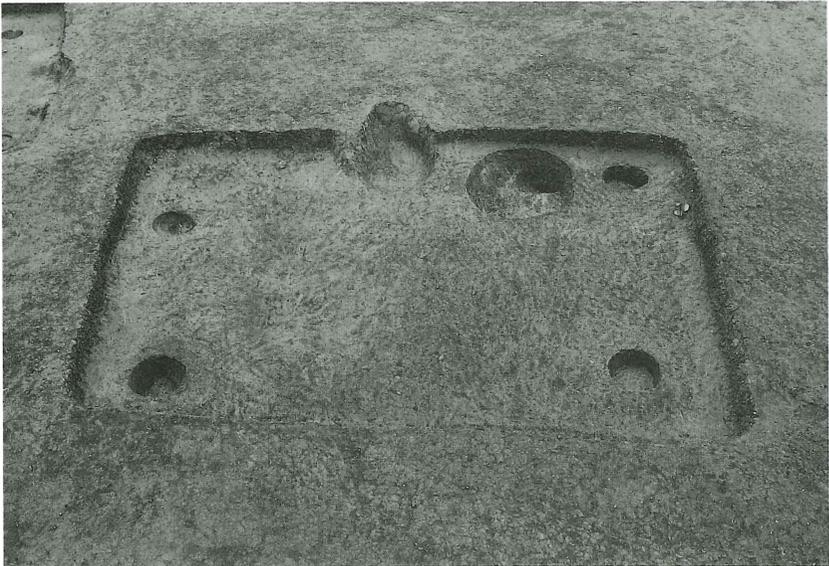
第76号住居跡
遺物出土状況



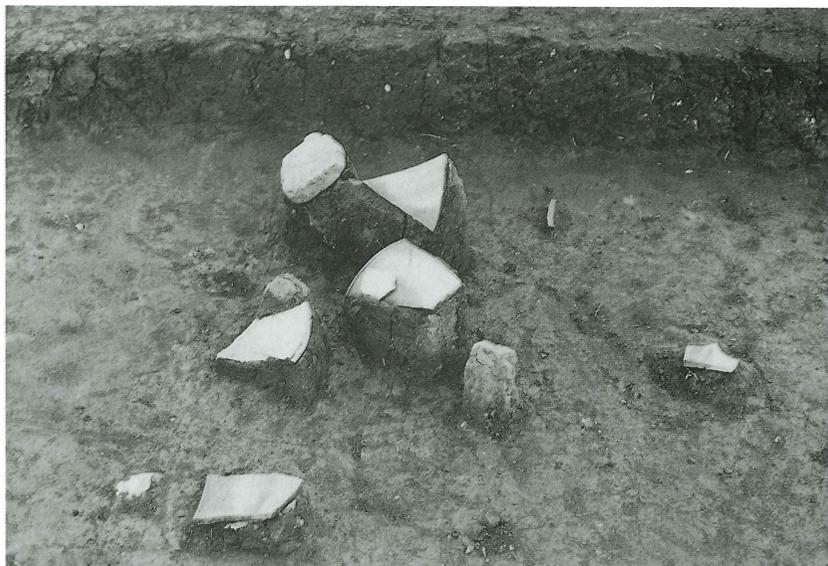
第76号住居跡
遺物出土狀況



第77号住居跡



第78号住居跡



第78号住居跡
遺物出土状況



第78・79号住居跡



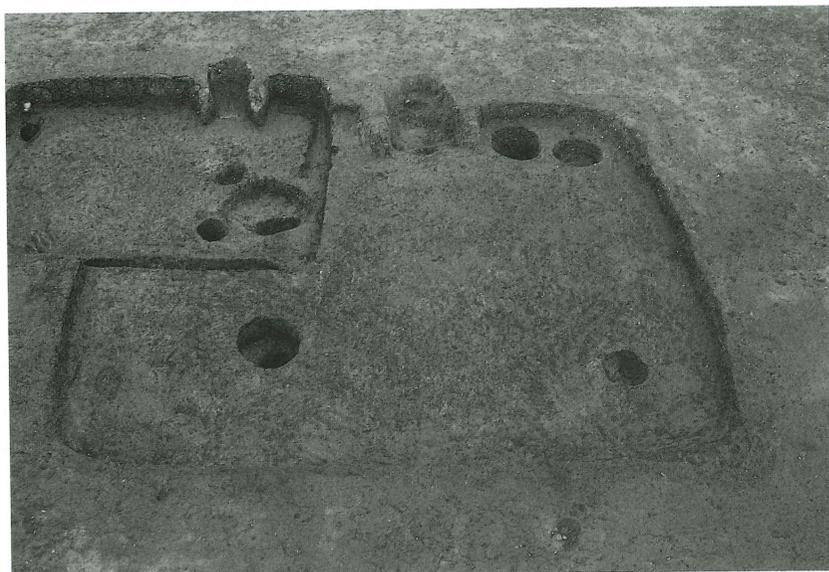
第79号住居跡



第79号住居跡
1号カマド



第80号住居跡



第80・81号住居跡



第81号住居跡カマド



第85号住居跡



第85号住居跡カマド



第85号住居跡貯蔵穴



第88号住居跡



第88号住居跡カマド



方形周溝墓群全景



第1号方形周溝墓



第2号方形周溝墓

第2号方形周溝墓
遺物出土狀況



第3号方形周溝墓



第4号方形周溝墓





第4号方形周溝墓
遺物出土状況



第5号方形周溝墓
(南から北)



第5号方形周溝墓
(北から南)



第5号方形周溝墓
陸橋部



第5号方形周溝墓
遺物出土狀況



第5号方形周溝墓
遺物出土狀況